

# 市長とのかがやきライフトーク

と き：平成 28 年 11 月 25 日（金）16：00～17：00

ところ：大垣市多目的交流イベントハウス 3 階会議室

団 体：CAPCO（カピコ：大垣外国人コミュニティーサポートセンター）

## 【CAPCO 代表】

私は、ブラジルで生まれ育ちました。地域の学校へ行きながら、日本語学校へも行き、日本の言葉や文化を学びました。家庭では、ポルトガル語と日本語のふたつの言語がある環境でした。幼い頃に母を亡くし、父も仕事が忙しかったため、当時、私は友達のことや進路のことなどを、父に相談できませんでした。そんなとき母がいれば、もっと相談ができたのと思ったものです。しかし、



それは違うことに大人になってから気づきました。父しかいなかったから相談できなかったのではなく、私が父に相談しなかったから、アドバイスをもらえなかったのだと。

今の学校現場では、外国にルーツをもつ子どもは言葉がわからないため、勉強についていけないなど、様々な問題があります。友達がいて相談ができ、アドバイスをもらえるような場所があったらいいなという思いから、私はこうして皆さんの協力のもと CAPCO を立ち上げました。

今日は、私たち CAPCO の活動紹介や日頃の活動での思いを話したいと思いますので、よろしくお願いします。

～ CAPCO・パワーポイントで活動の紹介～

## 【CAPCO 司会】

最初に、なぜ CAPCO のメンバーが、外国にルーツをもつ子どもの放課後支援に関わるようになったのか、それぞれご紹介します。

### 【CAPCO 会員】

私は、今年の4月からCAPCOの活動に関わるようになりました。普段は、市の教育委員会から派遣され、小中学校で外国にルーツをもつ子どもに中国語の通訳と、日本語指導の補助をしています。子どもが大好きなのと、言葉がわからないことや家庭環境によって、子どもの学ぶ権利や新しいことを知る経験などを奪われないようにしてあげたいという思いから、この活動に関わるようになりました。

### 【CAPCO 副代表】

私は、名古屋で難民支援に関わり、NPOやNGOの国際協力の分野で仕事をしていました。当時、ミャンマーの民主化運動の指導者であるアウンサンスーチーさんの言葉で、印象的なものがありました。「ミャンマーはビルマと呼んでください。ミャンマーは軍時政権がつけた名前です。」「今のビルマに行かないでください。観光で使ったお金が軍事政権の収入になり、政権が生き長らえるからです。」「日本は自由が保障されています。その自由を私たちの自由のために使ってください。」最後の言葉を聞いて、私は日本に生まれたからこそ、自由が保障されているのだと実感しました。

今、その言葉を私なりに外国にルーツをもつ子どもたちの自由のために使い、彼らに何かしらサポートをしたいという思いから活動をしています。



### 【CAPCO 会員】

私は、外国語を学ぶなかで、外国の方と接すれば勉強になると思い、この活動に関わるようになりました。子どもたちが、いろいろ話してくれることが嬉しく、力になってあげたいという思いから活動を続けています。子どもから学ぶこともあり、やりがいを感じます。

### 【CAPCO 司会】

皆さんの気持ちを改めて聞くと、それぞれの思いがあるものだと感心しました。これからの子どもたちへの関わりも、これによって変わってくるのではないかと思います。

### 【CAPCO 会員】

私は、小学校で外国にルーツをもつ子どもたちへの支援をしているときに、最初の赴任先でCAPCOのメンバーに誘われて関わるようになりました。今は小学校では相談員をしていますが、子どもとの出会いは一番楽しいです。

### 【CAPCO 会員】

私は今、地元の大学に通っています。高校の時から地域のごみ拾い活動や、小学生にソーラン節を指導するなど、いろいろボランティア活動をしてきました。大学 2 年生の時にまちなか研究をする「マイスター倶楽部」に出会い、それがきっかけでこの活動にも関わるようになりました。小学生と関わっていると、すごく楽しいので続けています。

### 【CAPCO 会員】

私も「マイスター倶楽部」に所属しています。CAPCO の活動に興味を持ち、参加するきっかけになりました。活動を通して、子どもたちが言語という問題を抱えながら頑張っている姿を見て、少しでも力になればという思いで活動しています。

### 【CAPCO 会員】

私は、大垣市役所まちづくり推進課の方に紹介してもらい、この活動に関わるようになりました。私は元々ブラジル人の方ばかりのところでは長年働いていた経験があり、その際ブラジル人とのコミュニケーションをとりたいと思っているうちに、徐々にポルトガル語を話せるようになりました。今、言葉の壁で悩んでいる外国にルーツをもつ子どもたちの問題を実感しています。子どもたちの明るい将来のために、少しでも役立てばという思いで続けています。

### 【CAPCO 司会】

私は CAPCO の岡本代表と小中学校の日本語教室で一緒でした。そこで、誘われたのが関わるようになったきっかけです。外国にルーツをもつ子どもが、言葉がわからないために進学・就職できず、その結果、犯罪につながることもあります。そうならないよう、子どもの頃から早いうちにしっかりと支援していくことが重要だと考えています。

### 【市長】

言葉はとても重要です。子どもは新しい環境でも、小さい頃からだと馴染むことができるが、高学年になると難しいと聞いたことがあります。言葉がわからないと、授業にもついていけず、自分の将来像も描けなくなります。また自分の適性もわからなくなり、将来、犯罪につながるということも考えられます。

日本語はとても複雑で、難しいと思います。その時々で変化し、言い方で雰囲気も変わってしまいます。話を最後まで聞かないとわからない場合もあります。日本語は世界的に見ると、極めて特殊でわかりにくいです。言葉を教えるのは大変苦勞がいることですが、それを学ぶ子どもも、もっと苦勞していると思います。言葉がわからず、いらだちを体で表現してしまい、暴力につながることもあるかと思っています。そして、それがい

じめにつながるという、悪循環になる場合もあるでしょう。そういう意味では、皆さんの活動は極めて大切な活動でありますし、ご苦勞も大きいと思います。

先ほどのお話の中で、ブラジル人の職場でポルトガル語を話せるようになったと伺いましたが、よく習得されましたね。

#### 【CAPCO 会員】

ポルトガル語を学ぶのに、それを勉強と捉えたり、文法から入っていたら、おそらく習得できなかったと思います。私は会話をしたいという思いから自然と話せるようになりました。言葉の習得には、勉強より会話が大切だと思います。



#### 【市長】

確かにそうですね。日本人の英語は、読み書きは得意だけど会話はできないとよく言われます。

#### 【CAPCO 会員】

先ほどの市長さんのお話の中に、高学年になると環境に馴染むのが大変だという言葉がありました。しかし、学習の面では、高学年になると、母語がしっかりしてきて日本語を母語に変換することができるようになるので、理解が進む傾向にあります。逆に、日本生まれ日本育ちの子どもや、小学校の3、4年生あたりで日本に来た子どものほうが、母語が確立していないために、日本語も母語もどっちつかずのダブルリミテッドで、学習の理解が進まない傾向にあります。

#### 【CAPCO 会員】

外国にルーツをもつ子どもの多くは、家庭では母国語、学校では日本語という使い分けをしています。その環境下で、第一言語が育たないと、学習の理解が不足するだけでなく、心も育ちません。

#### 【CAPCO 会員】

子どもが、自分の気持ちを正確に表す言葉を、持っていないということになります。

#### 【市長】

そういう意味では、第一言語は極めて大切だということですね。

### 【CAPCO 会員】

外国にルーツをもつ子どもの問題は、第一言語の問題だけでなく、日本語が育つことで母語を忘れ、今度は親とコミュニケーションがとれなくなるという問題もあります。思春期に心の悩みを相談しようにも、簡単な言葉のやりとりはできるけど、複雑な気持ちを言葉で伝えたいときは、親子で通じ合えないことになります。

### 【CAPCO 会員】

私たちは日本語を教えています、その一方で、必ず母語も継承していくよう働きかけています。

### 【市長】

高学年のほうが、母語がわかるから、言葉の置き換えができるということですね。日本は英語教育をしています、読み書きができるが、会話がうまくないということで、小学校 3 年生から英語の授業があります。もっと低学年から取り組んだほうがよいという意見もありますが、皆さんはどう思われますか。

### 【CAPCO 会員】

母語がどっちつかずになるくらいなら、1 か国語をしっかりと覚えたほうよいと思います。言語というのは、コミュニケーションをとりたいときや、何かを伝えたいときの手段なので、その状況におかれると覚えると思います。自分の気持ちを表せないのはつらいことです。

### 【市長】

家族の言葉が、優先されるべきですね。

### 【CAPCO 会員】

多文化共生は認知度が低いため、活動をもっと広く理解していただきたいと思います。学校現場でも、外国にルーツをもつ子どもが何もしていないのに、嫌な言葉をかける子がいます。これは、心のどこかで外国人を排除しようとする気持ちがあるのではないかと思います。今は、そういう時代ではない、ということアピールできると、大垣市がより「多文化共生のまち」になるのではないかと思います。

### 【市長】

嫌な言葉を投げかける子どもというのは、おそらく自分自身が傷ついているから、同じように他人を傷つけるのではないのでしょうか。そうは言っても、それが許されることではありませんので、しっかりとサポートしていく必要があります。

### 【CAPCO 司会】

今日は、冒頭に私たちがなぜ活動に関わるようになったのか、メンバー全員が紹介させていただきました。そこで最後に、今度は市長がなぜ市政に関わるようになったのか、教えていただけないでしょうか。



### 【市長】

大垣をいいまちにしたい、という気持ちが元々あり、ご縁があって、市政に関わらせていただくことになりました。

人生は自分で成し遂げると言いますが、自分ひとりの力だけでは、できるものではないと思います。自分の意思も大切であり、同時に人の協力もなければできないものです。

言葉というのは、人間にとって基礎的な部分であり積み重ねです。皆さんには、そういう重要な部分を担っていただいているのを、今日改めて感じました。

「多文化共生のまち」ということについては、減少傾向にあった外国人人口が、最近また増えつつありますので、より力を入れていきたいと思います。今日伺ったことは、外国にルーツをもつ子どもたちの将来、人生に関わる大きな課題であります。皆さまには、大変で大切な活動をしていただいておりますが、今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。